

教育研究データ			
1. 氏名			
上利 学			
2. 生年月			
1965年4月			
3. 取得学位			
修士(文学)			
4. 教育業績			
教育上の能力に関する事項	年月	概要	
(1) 教育内容・方法の工夫	2017年4月	① TOEIC のスコアを伸ばし、さらに実践的な英語力を身につけるために、過去の TOEIC 結果を分析し抽出した課題をもとに対応策を立案した。具体的な勉強方法を学生に提示して取り組みやすい環境を作った。	
	2018年4月	② 語彙習得の効果を上げるため、ソフトを利用して語彙補強に重点を置いた取り組みを立案した。	
(2) 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
5. 研究業績			
(1) 著書	単著 共著 の別	発行の 年月	発行所
① “Malory’s <i>Body and Corpse</i> ,” 中尾佳行、地村彰之(編)『独創と冒険』、pp. 79-94.	共著	2001	英宝社
② 「マロリーにおける Appeyche」、菅野正彦 編著『“Ful of Hy Sentence” 英語語彙論集』、pp. 35-40.	共著	2003	英宝社
③ コミュニケーションのための英文法	単著	2017	レタープレス
④ 英米短作品の文体分析	共著	2017	レタープレス
⑤ “Towards the Division of the Round Table in the <i>Morte Darthur</i> ,”	単著	2018	<i>The Pleasure of English Language and Literature</i> , ed. Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, and Osamu Imahayashi (Keisuisha), pp. 1-10.

(2) 学術論文	単著 共著 の別	発行の 年月	掲載紙および巻/号, 頁
① “New Compositors at Work in Caxton’s Malory”	単著	2014	<i>Poetica</i> 81, 15-32.
② 「英語教育に向けて－音声学と英語史の役割」	単著	2016	『広島文教グローバル』創刊号、1-10.
③ 「英語教育の中のフランス語」	単著	2017	『広島文教グローバル』第2号、1-15.
④ 「英語の接辞と音声変化」	単著	2018	『広島文教グローバル』第3号、1-9.
⑤ 「現代英語に底流する性差別」	単著	2019	『広島文教グローバル』第3号、1-18.
(3) 研究・作品発表	発表の年月		発表学会等
① “‘Appeachment’ in <i>The History of Reynard the Fox</i> ”	2010年8月		The 51st Summer Seminar of the English Research Association of Hiroshima
② “A Reappraisal of Lancelot’s Pursuit of Honour in the <i>Morte</i> ”	2017年8月		The 58th Summer Seminar of the English Research Association of Hiroshima
(4) 所属学会			
② 日本英文学会			
③ 日本中世英語英文学会			
④ 日本中世英語英文学会(西支部)			
⑤ 近代英語脅威会			
⑥ 広島英語研究会			